D.W.グリフィスにおけるショット構成に関する一考察
―バイオグラフ社時代の短編 2 作品をめぐって―

島野 義孝

A Study of D. W. Griffith's Film Editing Techniques:
About two Biograph Shorts

Yoshitaka Shimano

Abstract

The film editing methods of D. W. Griffith's early works through analysis of his short films such as 'The Sealed Room' made in 1909 and 'In The Border States' made in 1910 is the focus in my research. In the first half of 'The Sealed Room', you can find a superior example of one cut/ one sequense expressions. In the latter half of the work, you can also find an example of editing technique to show tow spaces at once. His work such as 'In The Border States' shows you an early example of dynamic film editing, which will be later developed to "cross cutting", editing technique.

はじめに

デイヴィッド・ウォーク・グリフィス(David Wark Griffith)は1875年1月22日、ケンタッキー州クレスウッド生まれ。演劇活動の後、1907年に俳優として映画界入りした。1908年6月に撮影された『ドリーの冒険』で監督となり、その後1913年にかけてバイオグラフ社で500本近い映画を演出した。1913年バイオグラフ社を離れ、4本の長編を監督した後、『国民の創世』(1915)と『イントレランス』(1916)の2本の超大作を完成。リュミエール兄弟やエジソンが技術としての映画の発明者であるのに対して、グリフィスは映画芸術の発明者、完成者といわれる。

今日普通にみられる物語映画やテレビドラマでは、通常複数のショットが組み合わされてまとまったひとつのストーリーが語られる。そこでは、現実の時間や空間とは性格を異にする、いわゆる映画的時間や映画的空間が構成される。そこに一般的にみられる技法や規則が存在するが、その中のかなりの部分が、グリフィスによって、『国民の創世』や『イントレランス』に至る過程で完成されたものである。とりわけバイオグラフ社時代の短編作品に、その発展の跡をみることができる。

ここでは、バイオグラフ社時代の短編作品の2つ（注1）から、ショット構成の分析を通して、初期のグリフィス作品における映像編集技法のいくつかについて考えてみたい。

1.『封印された部屋』

1．1　空間と時間の連続

『封印された部屋（The Sealed Room）』は1909年7月22日から23日に撮影され、8月2日に封切られた。長さは779フィート、上映時間にして11分15秒ほどである。

物語はバルザックの短編小説『ラ・グランド・ブルテッシュ（大きな張り出し窓）』(1842）にもとづいている。19世紀を舞台とする原作を、映画ではルネサンス期のヨーロッパに置き換えている。王は、塔の上の、出入り口がひとつしかない隔離部屋に、密通した妃と吟遊詩人を閉じ込めてしまう。

映画は題名、字幕、最後のバイオグラフ社のマークを含めて34カットで構成されている。（図1）登場する場面は塔の上の隔離部屋と、部屋につづく広間の2つである。隔離部屋は基本的に同じカメラ位置と角度、サイズで部屋の全体が撮られている。16番目と18番目の2カットだけが、床に足を投げ出して座った吟遊詩人の全身が写るように、やや下方にカメラが向けられている。広間は、前半は全体を見せる画面、後半は隔離部屋への入り口を見せる、やや寄りの画面で撮られている。タイトルを除いた実写画面としては、ほぼ3種類（厳密には4種類）のカメラ位置と角度、サイズが存在することになる。

カメラは、部屋や広間の全体を見せる画面では、それらに対して正面に置かれている。広間の、隔離部屋との境を見せる画面では、カメラは、広間から部屋への入り口がある、広間のやや下手よりに置かれ、入り口側に向けられている。しかし、画面の正面性の印象をくずすほどではない。レンズの高さは人物の腰から肩のあたりで、水平方向を向いている。画面のサイズは、隔離部屋の全体を見せるショットと、広間の全体を見せるショットで、画面手前の人物の足首から先が切れる程度だが、部屋の広さに対応して、広間の方がやや人物は小さめである。広間の、やや寄りのショットでは、画面手前の人物の膝から下が切れる程度である。接写画面は存在しない。

これらの、個々の画面の正面性と、人物の全身または膝から上をとらえた画角、加えて、ほぼ3つというショットの種類の少なさは、今日の目からみると、舞台劇を写し取ったような印象をあたえる。（固定した視点からの撮影という条件から、広間のセットの遠景部分は書き割りであり、その点も舞台との類似を連想させる。）また、登場する場面を、屋内の、しかも2つの部屋のみに限定する題材も、演劇的な印象を強めている。

作品の中で最も長いカットは、字幕「THE KING BECOMES SUSPICIOUS（王は疑念を抱く（注2））」につづく9番目のカットで、2分44秒つづく。広間には王と妃、3人の家臣と3人の侍女達、それに吟遊詩人がいる。王ははじめ妃と語らっているが、名残惜しそうにしながら、家臣達とともに広間をあとにする。（広間への人の出入りは、妃の部屋との間以外は、上手側から行われる。）妃は侍女達を去らせ、広間には妃と吟遊詩人だけが残る。2人は抱き合って口づけを交わすが、気配を感じて離れる。王と3人の家臣達が戻って来る。王は吟遊詩人に疑いの目を向ける。侍女のうちやや年配の1人につづいて、6人の家臣達、3人の若い侍女達が広間にやって来る。その間、王は妃の脇を離れて、家臣の何人かと話したあと、下手奥の1人の家臣に指示を与える。指示された男は広間を上手に横切って画面の外に走り去る。王が再び妃の脇へ戻ると、家臣が駈け戻り、

王に何事かを告げる。王、家臣達、侍女達は驚いて急いで広間から去る。再び妃と吟遊詩人のみが残される。2人は後ずさる妃を先に広間の下手の、彼女の部屋への入り口へと歩み、妃が画面の枠から消えたあたりでカットがかわる。

このカットでは画面内の人物が、9人から5人、2人へと減り、その後6人を経て一気に16人まで増え、15人、16人から再び2人になる。1人が見えなくなり、間もなく誰もいなくなるであろう直前でカットは終わる。かなり長い時間の、しかも固定撮影によるカットだが、画面への人物の出はいりと画面内の人物の動きによって、空間に豊かな変化をつくりだしている。また、物語の上でも心理的な緊張が持続し、空間的な変化とあいまって、みるものを飽きさせない。

カメラの枠で切り取られた画面は演劇の舞台と同じではないが、固定した視線と連続した時間による1カット内の表現としてみた場合、このカットを、演劇的な、空間と時間の連続と比較することも可能であろう。

1．2　空間の非連続、時間の連続と省略

つづく10カットめ、カメラは妃の隔離部屋をとらえている。前のカットで広間の下手に去りつつあった妃と吟遊詩人の2人は、部屋の上手にある入り口から現れる。9カットめから10カットめにかけて、視点の切り替えによって、空間が広間から妃の部屋へと非連続に変化する。一方、広間から部屋へと移動する2人の動きは連続してみえ、時間の連続が印象づけられる。2人の衣装や小道具が一致していることは勿論だが、カメラが登場人物に対して同じ側にあり、妃と吟遊詩人の位置関係（妃が下手側）と動きの方向（上手から下手へ）が一貫していることも連続の印象を得ることを助けている。空間の非連続な変化は、時間の連続の印象によって、みるものに受け入れられ、広間と部屋の2つの空間が隣り合ったものとして了解される。

10カットめのつづきでは、妃と吟遊詩人が部屋で親密にくつろぐ。11カットめは再び広間に切り替わり、王が1人の家臣と戻って来る。ここでは、前のカット替わりのような、時間の連続を示す技法は使われていない。しかし、すでに部屋と広間を隣り合った空間として了解しているものは、10カットめと11カットめが時間的に連続しているか、あるいは並行しているものとして受け入れる。妃がいないのを不審に思った王は、妃の部屋を覗く。王がカーテンを開ける動作をきっかけに、12カットめの部屋のカットに切り替わる。9カットめから10カットめへの画面転換と同様、時間の連続が示される。そのことによって、妃と吟遊詩人のいる部屋と、王のいる広間との時間的な同時性と空間的な隣接がより明確に示される。

部屋にいる妃と吟遊詩人を見た王は、そのままいったんカーテンを閉め、広間の側に戻る。13カットめで、広間の、部屋への入り口を見せる、やや寄りのショットが初めて現れる。これ以降作品のラストまで、妃と吟遊詩人のいる部屋と、王のいる広間（部屋への入り口を見せる、やや寄りのショット）の2種類のショットが、交互に繰り返される。9番目のカットに代表されるような、長い1カットによる表現から、10、11、12番目のカットを経て、作品の後半は、2つの場所の出来事を並行して描写する表現形式に移行する。

13カットめで、王はいったんは剣を手にするが、妃の部屋のひとつしかない入り口を封印することに決め、職人を呼びに広間から出て行く。15カットめで職人を連れて来て指示を与えると、15、17、19、21カットで封印が完成、23カットめで職人を追い払う。その間、14、16、18、20、22カットめは、もう一方の部屋で、膝枕で弦を奏でる吟遊詩人と彼に花びらを落とす妃、キスを交わす2人の場面がつづく。そのうち18と20カットめでは、入り

口のカーテンをわずかに開ける王の手が見え、部屋と広間のつながりを示す。この間の妃の部屋のカットは、何も知らずに閉じ込められつつある2人を示すと同時に、広間の側で行われる、煉瓦を積み上げて入り口を封印する作業の行程の描写を、時間的に省略するという機能を担っている。

24カットめで妃と吟遊詩人は部屋から出ようとして、出口が塞がれていることに気づく。つづく26、28、30、32カットめでは、はじめ別の出口を探すが、自分たちが完全に閉じ込められたことを理解した後、おそらくは酸素の欠乏により苦しみはじめ、妃、つづいて吟遊詩人と、ついに息絶える過程が描写される。それらに挟まれた25、27、29、31と、最後の33カットめでは、広間に1人残った王が、2人をあざ笑うさまが描かれる。

作品の後半は、2つの異なる空間が交互に示されるという構造になっている。それぞれの場所については、同一の視点からの連続した映像で示され、また、2つの空間は隣り合った場所であるとはいえ、視点の非連続な切り替えが行われていることは確かである。より興味深いのは、視点の切り替えに伴う空間の非連続と、時間との関連だろう。すでにみたように、9から10、あるいは11から12カットめへの切り替えにあたっては、時間は連続している。いっぽう、例えば13から23カットめにおいては、各カットの切り替えにあたって、時間が連続しているかいないかを決定することができない。(18から19カットめへの切り替えは、王の手の位置から、連続が示唆されるが。)しかし、煉瓦を積むという作業の進展ぶりからして、例えば15から17カットめをとってみると、その間の時間が省略されていることは明らかである。つまり、15から16、あるいは16から17のいずれか、またはその両方で、時間が不連続になっていることになる。

この作品の特に後半では、異なる空間を時間軸にそって順次、または、とりわけ交互に配置するという方法がみられる。それにともなって、各カットの切り替えにあたり、時間の連続、または非連続をかなり任意に操作し得ている。これらの点から、ひとつには空間表現について、異なる2つの場所の並行的な描写の、萌芽がみられるといえるだろう。さらに時間表現について、2つの場所を交互に示す方法を用いて、時間の連続と省略をかなり自由に行い得ているといえよう。

2.『境界州にて』

『境界州にて(In The Border States)』は1910年5月3日から14日に撮影され、6月13日に封切られた。長さは990フィート、上映時間にして14分30秒ほどである。

映画は南北戦争時代の「境界州」(「奴隷制度を採用していた南部に所属してはいるが、北部と州境を接しており、北部との融和を基本路線としていた州」(注3))を舞台とし、ある戦いのエピソードを描いている。ここでは、南軍の前線を突破する任務を与えられた1人の北軍兵士が、南軍兵士1人を撃ち、その仲間の南軍兵士達に追跡されるシークエンスをみてみたい。

この映画のセット撮影は、『封印された部屋』と同様、マンハッタンのバイオグラフ・スタジオで行われたが、ロケーション撮影はニュージャージー州のデラウェア・ウォーター・ギャップで行われたという。これからみるシークエンスは、ロケーション撮影されたものであり、その点からも、『封印された部屋』の一見演劇的な印象とは大きく異なる。

字幕「AT UNION HEADQUARTERS/THE YOUNG FATHER DISPATCHED(北軍司令部で　若い父親が危険な任務に派遣された)」に、上官から兵士が書類を受け取り、出発するカットがつづく。次の字幕

「HE MAKES WAY THROUGH THE CONFEDERATE LINES（彼は南軍の前線を突破する）」から、字幕「THE NEXT MORNING/THE YOUNG FATHER SEEKS REFUGE IN HIS OWN HOME（翌朝若い父親は自分の家に避難する）」の前まで、およそ2分ほどのつながりをみて行く。（図2）

字幕「HE MAKES WAY THROUGH THE CONFEDERATE LINES（彼は南軍の前線を突破する）」を起点とすれば2カットめ、背景に川が流れ、画面前景、上手に一本の木の幹が見える風景が写し出される。北軍兵士は画面下方の斜面を登って現れ、木の脇を通って画面手前、下手に消える。

次のカットはシークエンスの中では最も長く、38秒ある。川を見下ろす斜面で、1人の南軍兵士が歩哨に立っている。彼がいったん画面下手に消えると、画面下方、斜面の藪から北軍兵士が現れる。南軍兵士はすぐに戻って来て、北軍兵士は再び藪に戻る。しかし南軍兵士が気配を察して振り向きざまライフルを構えるので、南軍兵士を撃ち、斜面を登って画面手前、上手に走り去る。銃声を聞いた南軍兵士達が2人、つづけてさらに4人駆けつけ、倒れた兵士を抱き起こすと、彼は北軍兵士が走り去った画面上手手前を指し示す。南軍兵士達のうち5人が画面手前、やや下手に走り画面から消えると、撃たれた兵士と彼を支える1人を残して、カットは切り替わる。

次の4カットめは2カットめと同じショットで、北軍兵士は2カットめで出て行った下手手前から画面にはいり、木の脇で一瞬振り返り小銃を構えるが、そのまま木の向こう側を通って画面上手に走り去る。5カットめは森へとつづく岩場で、北軍兵士は上手やや手前から画面にはいり、自分が来た方へ向かって小銃を一発撃つ。6カットめは再び2、4カットめと同じショットで、1人の南軍兵士が、先ほどの北軍兵士と同じ軌跡で画面にはいり、北軍兵士が走り去った方向、上手やや奥下方に向かってライフルを撃つ。7カットめは5カットめのつづきで、北軍兵士は撃たれ、胸を押さえて仰向けに倒れる。しかしすぐに起き上がって、画面奥、上手に走り去る。8カットめは6カットめのつづきで、ライフルを撃った兵士は飛び上がって走り出しており、もう1人の南軍兵士も画面中央で走っている。さらに3人の兵士達が画面下手手前からやって来て上手奥へと次々に走り出て行く。9カットめは5、7カットめと同じ森へとつづく岩場で、5人の南軍兵士達が北軍兵士とほぼ同じ軌跡で画面にはいり、そのうちの1人が北軍兵士の落とした小銃を拾い、北軍兵士が走り去った方向へ進む。5人のうち2人が画面の外に出た段階で、カットは字幕「THE MAN HUNTERS（人間狩り）」へと切り替わる。

以上のうち、字幕以外の8カットは、3種類のショットで構成されている。38秒という長さをもつ3カットめを除いて、上手前景に木の幹があり背景に川が見えるショットは2、4、6、8カットめで繰り返され、森へとつづく岩場のショットは5、7、9カットめで繰り返される。特に4から9カットめにかけては、2種類のショットが交互に、3.5、3.5、2.5、7、3という秒数で交替しており、かなり速度感のある展開になっている。

これを『封印された部屋』の後半の2つの場所の交替と比較してみると、各カットの秒数の長さだけではない違いがある。『封印された部屋』の後半においては、妃と吟遊詩人のいる部屋と、王や煉瓦職人、家臣のいる広間は、それぞれ独立した空間として作用している。王の体のかなりの部分や、手の一部が部屋の入り口のカーテンの隙間から見えることがあるとはいえ、2つの空間の間では、基本的に人物の往来はない。そのため、広間の側から部屋の入り口に煉瓦を積み上げつつある時には、「一方部屋の中では、妃と吟遊詩人がこうしている」といった表現になる。その後、部屋の中で2人が閉じ込められたことに気づき、苦しみ息絶えるに至る

過程では、「その時、広間では王が2人をあざ笑う」というふうである。2つの空間は同時に存在しているには違いないが、それらの間での相互作用は、限られたものなのだ。

『境界州にて』の北軍兵士と南軍兵士達のシークエンスでは、2つの空間は閉じられたものではない。川の見えるショットと岩場のショットが交互に繰り返される点では、部屋と広間のショットが交互に繰り返されることと似ている。しかし、部屋には一貫して妃と吟遊詩人がおり、広間には一貫して王がいるのとは違って、人物達は2つの場所を移動して行く。4カットめの北軍兵士は5カットめの岩場へと移動し、さらに7カットめでは画面の外へと出て行ってしまう。6、8カットめの南軍兵士達も北軍兵士を追って9カットめでは岩場へと移動する。さらに、5カットめの北軍兵士が放った銃弾は6カットめの南軍兵士に向けられたものであろうし、その南軍兵士のライフルからの銃弾は7カットめの北軍兵士に命中している。このようなカット間の人物の移動と、カット間での相互作用が、単なる2種類のショットの交替という繰り返しの印象を越えて、流れるような運動感を実現している。

補足的に、3種類のショットの位置関係についてみてみたい。3カットめで上手手前に画面から出た北軍兵士は、4カットめでは画面の下手手前からはいってくる。この時、下手から上手へという運動の方向性は一貫している。（しかし、3カットめで、撃たれた南軍兵士が上手手前を指し示すにも関わらず、他の南軍兵士達は手前やや下手側に走り出る。）4、6、8カットめの川の見えるショットと、5、7、9カットめの岩場のショットとの位置関係はどうか。4カットめで画面上手奥へ出た北軍兵士は、5カットめでは上手手前から画面にはいって来る。手前から奥へという方向性では一致しているが、左右の運動の方向性は一致していない。同様に、5カットめの北軍兵士は上手手前やや上方に小銃を撃つが、6カットめの南軍兵士は上手奥やや下方に向かってライフルを撃つ。この場合も、手前と奥という関係では、2人の兵士達は向き合っているという印象を得るが、左右の位置関係としては同じ方向を向いているという印象を生じないともいえない。少なくとも、その後確立したイマジナリー・ラインの法則には、反している。（注4）

字幕「THE MAN HUNTERS」のあとの2カットは、11カットめが森の中を手前に逃げて来る北軍兵士、12カットめが、同じ場所同じ軌跡を、さらに暗くなった時刻に、松明を掲げて追う南軍兵士達である。時間が切れ目なくつながっていない同じ構図の画面を、そのまま連続してつなぐことは、今日では一般的に避けられる。

今日私たちの多くが無意識に受け入れてしまっている映画や映像における規則の数々が、1910年の時点では、一般的に受け入れられた共通のものではなかったことを窺うことができる。

おわりに

今回、グリフィスの初期2作品の部分をみて、そのショット構成から、映画的空間、映画的時間の生成についてひとつの考察をこころみた。グリフィスの、500本近いというバイオグラフ社時代の作品の中から、とりわけこの2作品でなければならないという理由はなく、たまたまDVDで入手可能となった5本の中から選んだにすぎない。今後さらに多くの作品をみて、より体系的に、映像の話法の発展を跡づけることができればと思う。

注

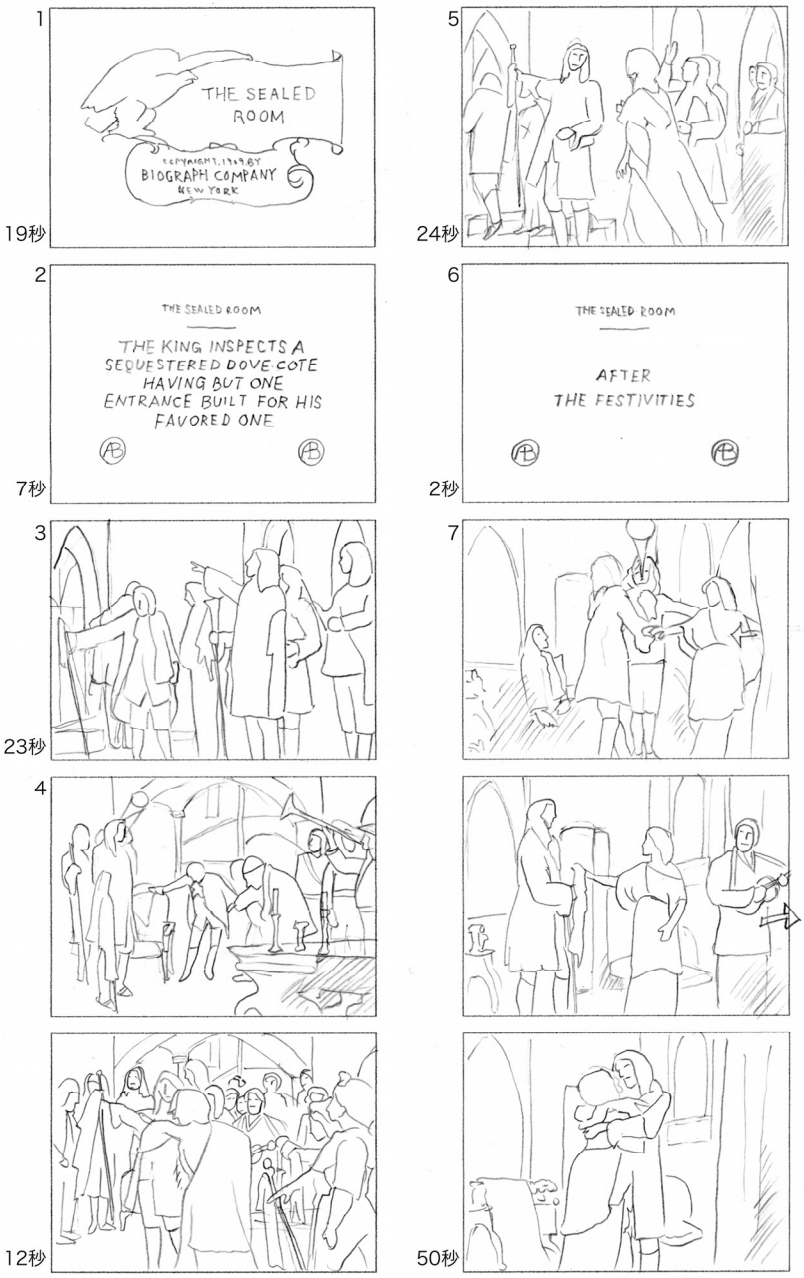
1) 「国民の創生　グリフィス短編集」 2008年　紀伊國屋書店　より、『封印された部屋』と『境界州にて』 作品の撮影日、封切り日、長さなどのデータは、同リーフレットの　小松弘「グリフィス短編集/解説」に拠った。

2) 字幕の翻訳は細川晋による　以下も同様

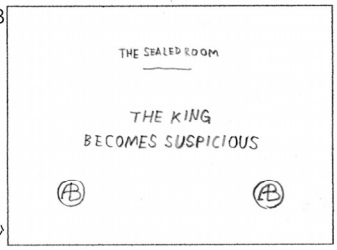
3) 前掲リーフレット　小松弘「グリフィス短編集/解説」P.45

4) 例えば2人の相対する人物を撮影する場合、2人を結んだ線を想定する。その線を想定線、またはイマジナリー・ラインと呼ぶ。一般的に、最初のカットでカメラを置いた位置と、次のカットでカメラを置く位置は、常にイマジナリー・ラインの同じ側になければならないとされる。イマジナリー・ラインを越えてカメラ位置を替えると、位置関係に混乱が生じるからである。これをイマジナリー・ラインの法則という。5カットめの北軍兵士と、6カットめの南軍兵士の間にイマジナリー・ラインを引くと、5カットめと6カットめのカメラ位置はイマジナリー・ラインを越えていることになる。

図1　『封印された部屋（The Sealed Room）』

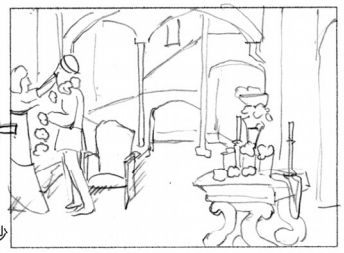


8



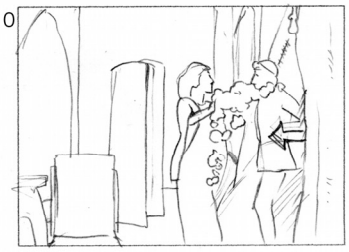
4秒

9



2分44秒

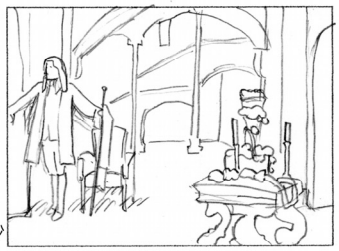
10



30秒

11

37秒



12

9秒

13

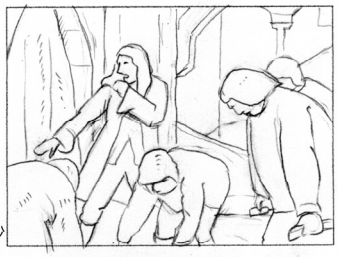
36秒

14

5秒

15

17秒



16

9秒

17

12秒

18

15秒

19

18秒

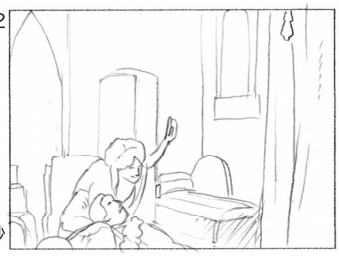
20

23秒

21

5秒

22



5秒

23

8秒

24

29秒

25

5秒

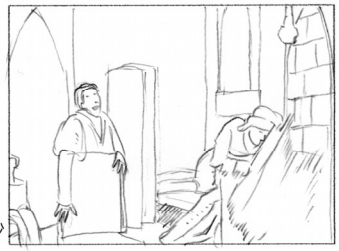
26

25秒

27

5秒

28


17秒

29

4秒

30

9秒

31

5秒

32

21秒

33

6秒

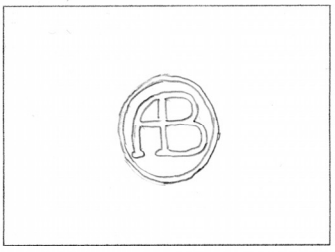
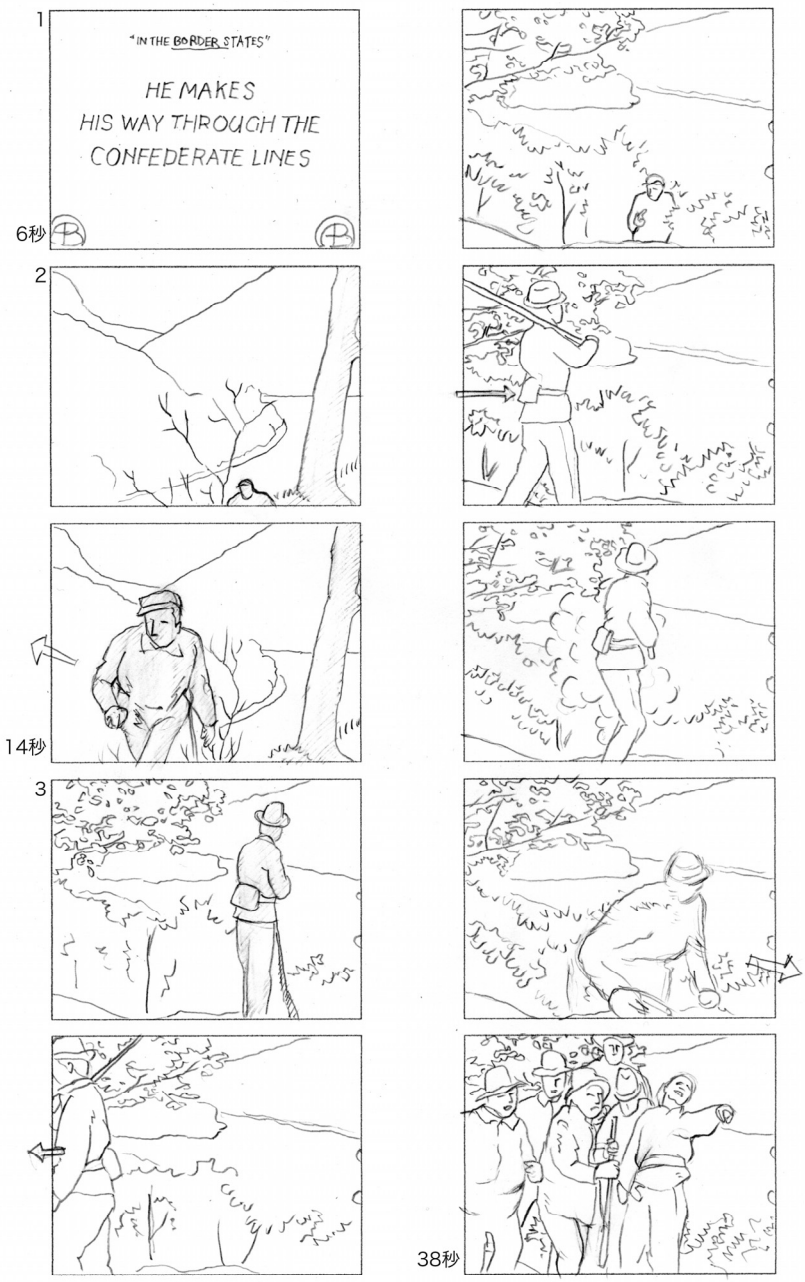
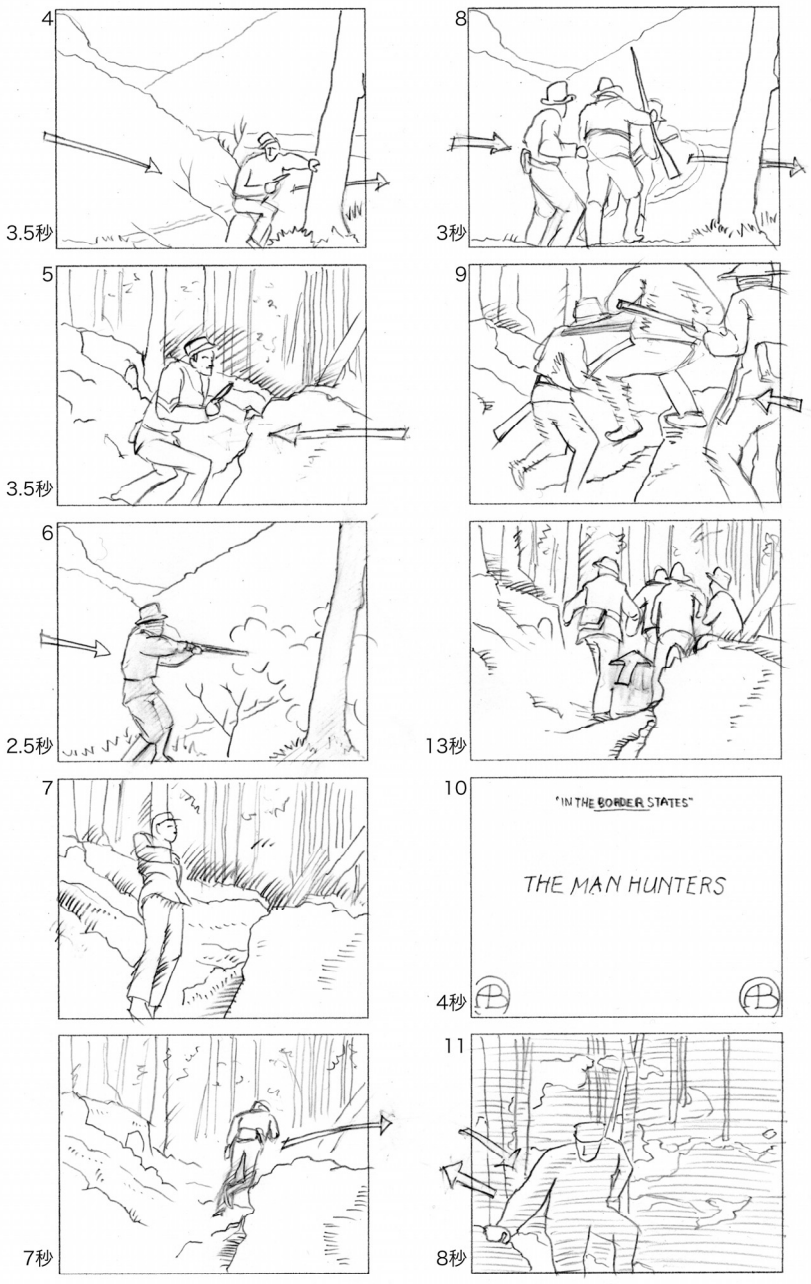
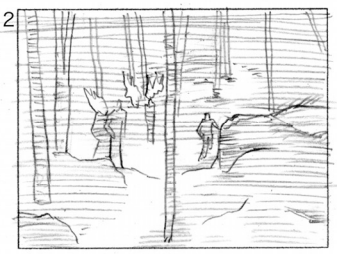
34

4秒

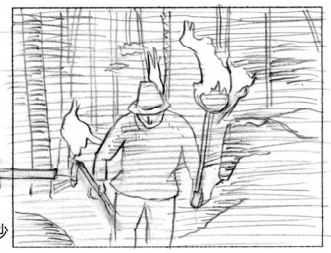
図2　『境界州にて（In The Border States）』からのシークエンス




4
3.5秒
5
3.5秒
6
2.5秒
7
7秒
8
3秒
9
13秒
10
"IN THE BORDER STATES"
THE MAN HUNTERS
4秒
11
8秒

12





17秒

13

"IN THE BORDER STATES"

THE NEXT MORNING

THE YOUNG FATHER SEEKS REFUGE IN HIS OWN HOME

8秒